府高教コロナ対策ＮＥＷＳ　大阪府立高等学校教職員組合　2020年5月21日(木)

コロナ感染症から子どもと教育を守ろう！NEWS(5)

新型コロナ感染症に関する通知などの情報や、府高教のとりくみ、現場の声をお伝えします

コロナ禍での工夫は教育への希望です。～組合員の報告から～

VOICE　授業日確保で行事が無くなる!?

教務部長といっしょに学校再開後の年間行事予定を検討しています。仮に６月から授業が再開した場合、土曜日授業や夏・冬休みを短縮して対応、そして行事を大幅に縮小・中止して授業日数を確保しなくてはいけません。学力の問題は重要ですが、行事が無くなることによる人間的な成長の機会といった教育効果の損失がとても心配です。何とか両立できないか、職場のみんなで相談しています。

（市内支部　Ｄさん）

VOICE　「青空図書館」のとりくみ

分散登校が始まりましたが、図書館の開館は困難。でも、こういう時だからこそ本を読むことが大事。そこで、２つの事を行いました。１つめはＱＲコードを準備、図書館に本のリクエストができるシステム。登校日に生徒に渡せる。２つめは「青空図書館」を開館。駐輪場から校舎入り口までの間に移動式の書架を準備。先生たちのおすすめの本、２００冊くらいを置きました。本を借りていった生徒たち、推薦してくれた先生たちからも好評で、私たちができる工夫はたくさんある、と思いました。　（中河内支部　Ｅさん）

いまだかつてない事態には、いまだかつてないとりくみを

教文センターがコロナ休校にかかわり提言

大教組の協力団体である大阪教育文化センターは、新型コロナウイルスによる長期休校にかかわって、４月 27 日に**提言「子どもたちにとって大事なことを絞り込んで、教育内容の大胆な削減を」**を発表しました。また、休校中の登校日について、５月 13 日に追加提言「登校日と学習課題」も発表しました。子どもたちを学校が、先生がどう受け止めていくか示唆にとんだ内容になっており、反響を呼んでいます。大阪教育文化センターのＨＰから簡単に閲覧できます。ぜひ、読んでみてください。☞☞☞

提言より（一部抜粋）

子どもにとって何が必要か

このような，いまだかつて経験したことのない事態に対して求められる教育活動は，従来の枠組みにとらわれていては，対応できません。従来の枠組みを超えた「いまだかつてないとりくみ」が必要です。その際，もっとも大事なことは，子どもにとって何が必要かであり，そのことを中心に据えてとりくむことが何としても求められると考えます。

「よく来たね」と子どもをまるごと受け止めたい

こんな状況だからこそ，いつにもまして，子どもたちとの出会いを大切にしたいものです。「よく学校へ来たね」という思いを全面に，子どもを丸ごと受け止めたい。子どもの表現を全力を込めて受け止めたい。今年だからこそ，こんなときだからこその「学級びらき」を工夫したいですね。ともすれば，大幅に削減された授業時数のもとで，早く教科の授業を始めなければという気持ちに駆り立てられるのは無理のないことですが，ちょっと立ち止まって，こんなときだからこそ，焦らずに，あわてずに，教室が子どもたちの居場所となるように，教師と子どものあたたかい関係を築けるよう，心を砕いてみましょう。そして，子どもたちどうしのあたたかい関係を築けるよう，子どもたちの心と心をつなぐことを大切にしたいですね。